

コロナが変えた家族

東北大学-RIETI共催シンポジウム「コロナが変えた社会」

2021年11月10日

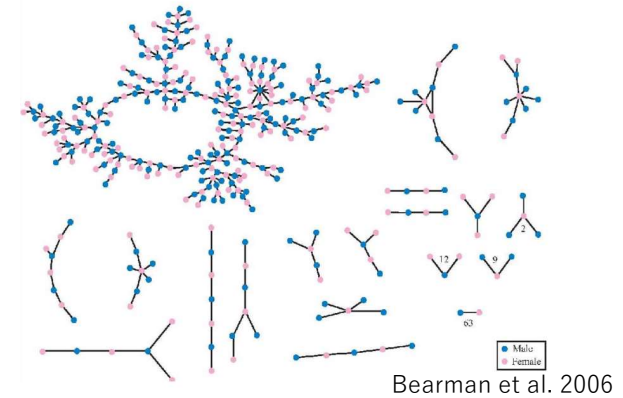
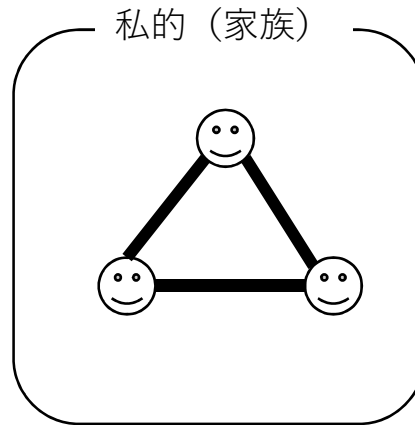
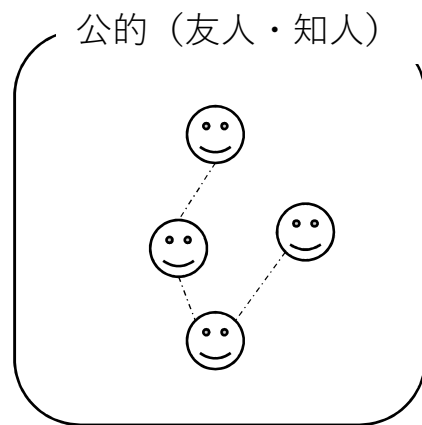
瀧川裕貴（東北大学）

自己紹介

- 東北大学大学院文学研究科計算人文社会学所属
- 博士（社会学）
- 専門は、デジタル社会調査、社会ネットワーク分析、数理社会学、計算社会科学
- 「デジタル社会調査の方法を用いて社会学的視点から新型コロナウイルス問題を考える」

社会学的視点とは？

- 社会構造（→社会的つながり、ネットワーク）の視点から考えること
- コロナ禍における社会的つながりの再編成



⇒メンタルヘルスへの影響

家族の社会的な見方

- 役割アイデンティティ論 (Thoit)
- 家族は、夫役割、妻役割、親役割、子役割などの社会的に定義づけられたカテゴリからなる。
- 役割とは、権利や義務、規範や期待の集合。これらが家族間の関係性を定める。
- 役割アイデンティティは自尊心やコントロール感覚の源泉



コロナ禍による家族のつながりの揺らぎ？

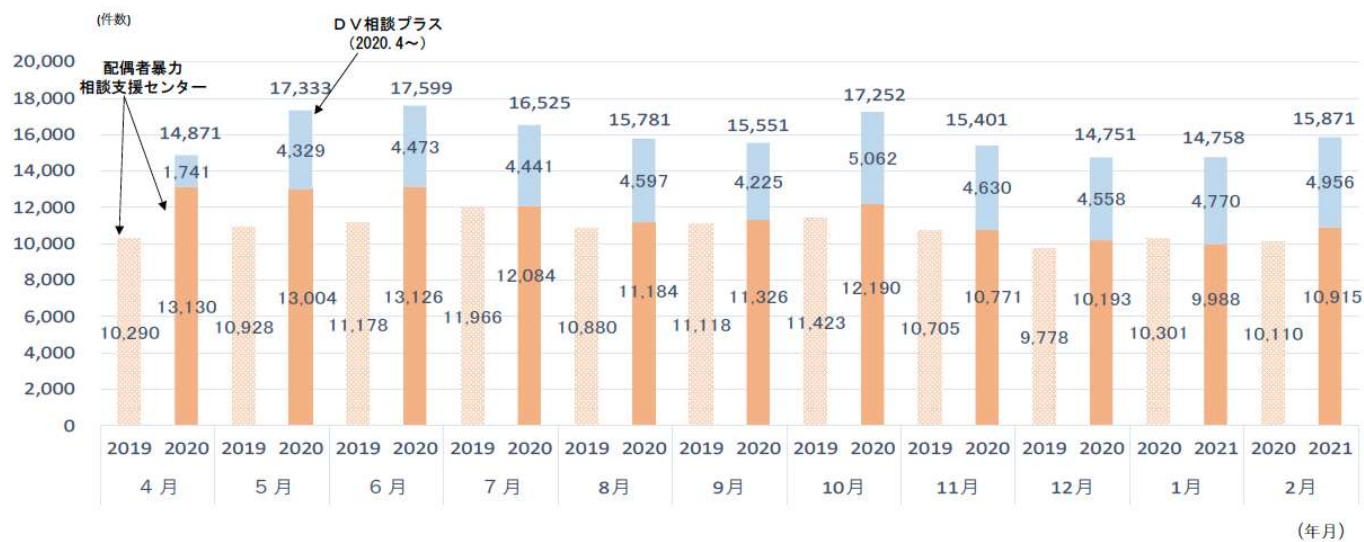
- 在宅勤務、休職・失業、子どもの休校、外部とのつながりの遮断
→家族との強制近接forced proximity

*一般的に、強制近接は攻撃性や家庭内暴力を引き起こす
可能性が示唆（Van Babel et al 2020）

- 役割理論的観点から...

コロナ禍で関係性がゆるぐなか、役割アイデンティ
ティの再構築が上手くいかない場合には、人びとの
メンタルヘルスに悪影響？

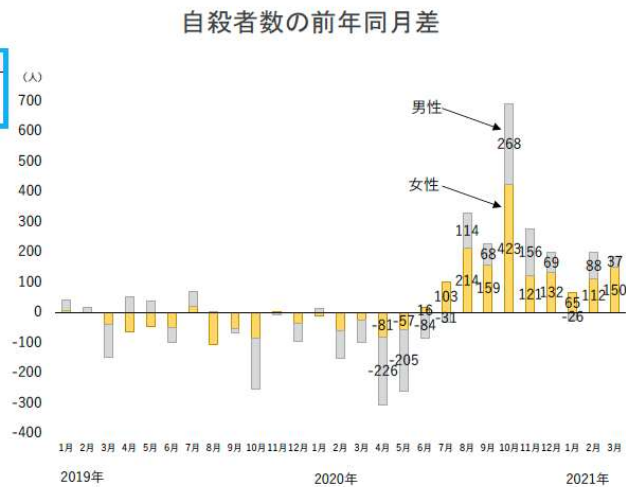
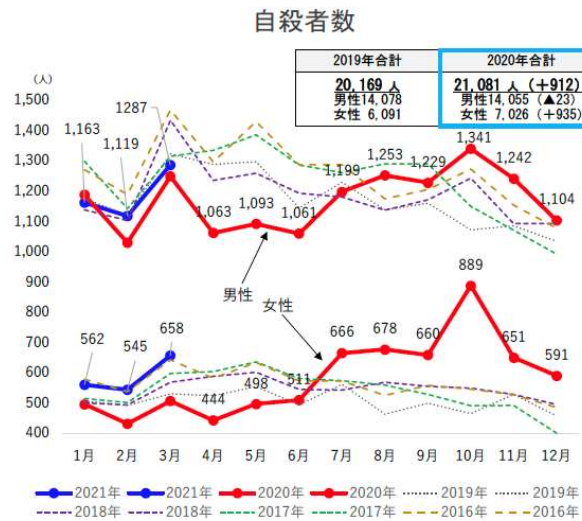
DV相談件数の増加



(出典) 内閣府男女共同参画局調べ ※全国の配偶者暴力相談支援センターからの相談件数は、令和3年3月31日時点の暫定値。

コロナ下の女性への影響
と課題に関する研究会
(2021)

女性の自殺者数の増加



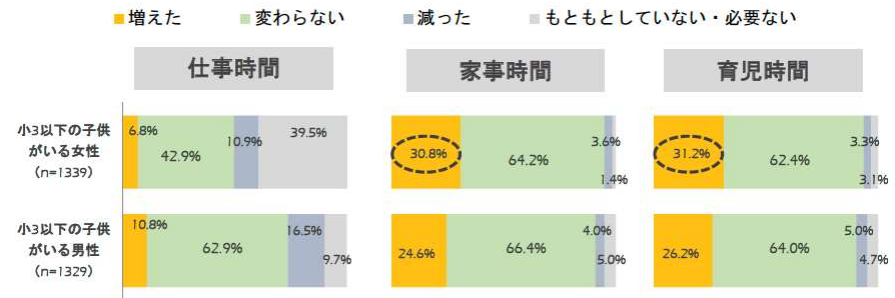
(警察庁HP「自殺者数」より作成。原数値。2020年分までは確定値。2021年分は2021年4月16日時点の暫定値。)

コロナ下の女性への影響
 と課題に関する研究会
 (2021)

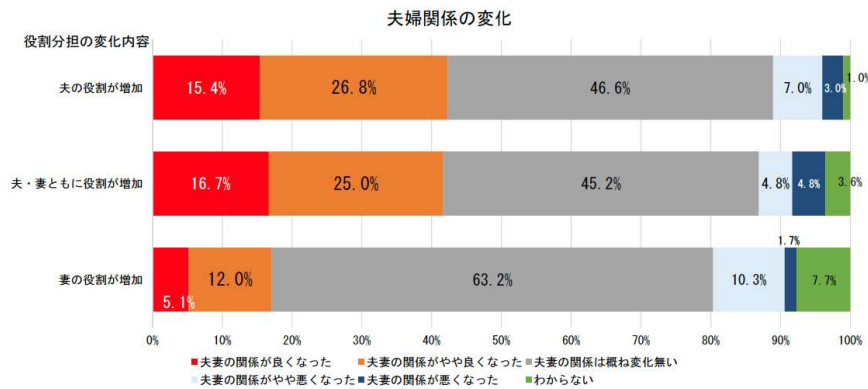
役割分担の変化と家族関係 / 満足度

内閣府「満足度・生活の質に関する調査」

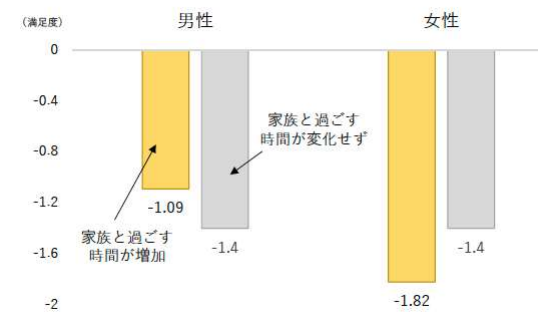
役割分担の変化



夫婦関係の変化



満足度の変化



コロナ下の女性への影響と課題に関する研究会 (2021)

中間まとめ

- 家族関係の揺らぎがメンタルヘルスに影響を与える可能性
- とくに男女によって状況が異なる？
- これまでの調査は、回顧的（過去を振り返って答えてもらう方法）で信頼度が？家族関係の揺らぎとメンタルヘルスの悪化の因果関係も明らかではない。

⇒デジタル社会調査の手法によるリアルタイムに近い形でのサーベイ（アンケート）調査

新型コロナウイルス感染症流行下での日常生活に関するアンケート

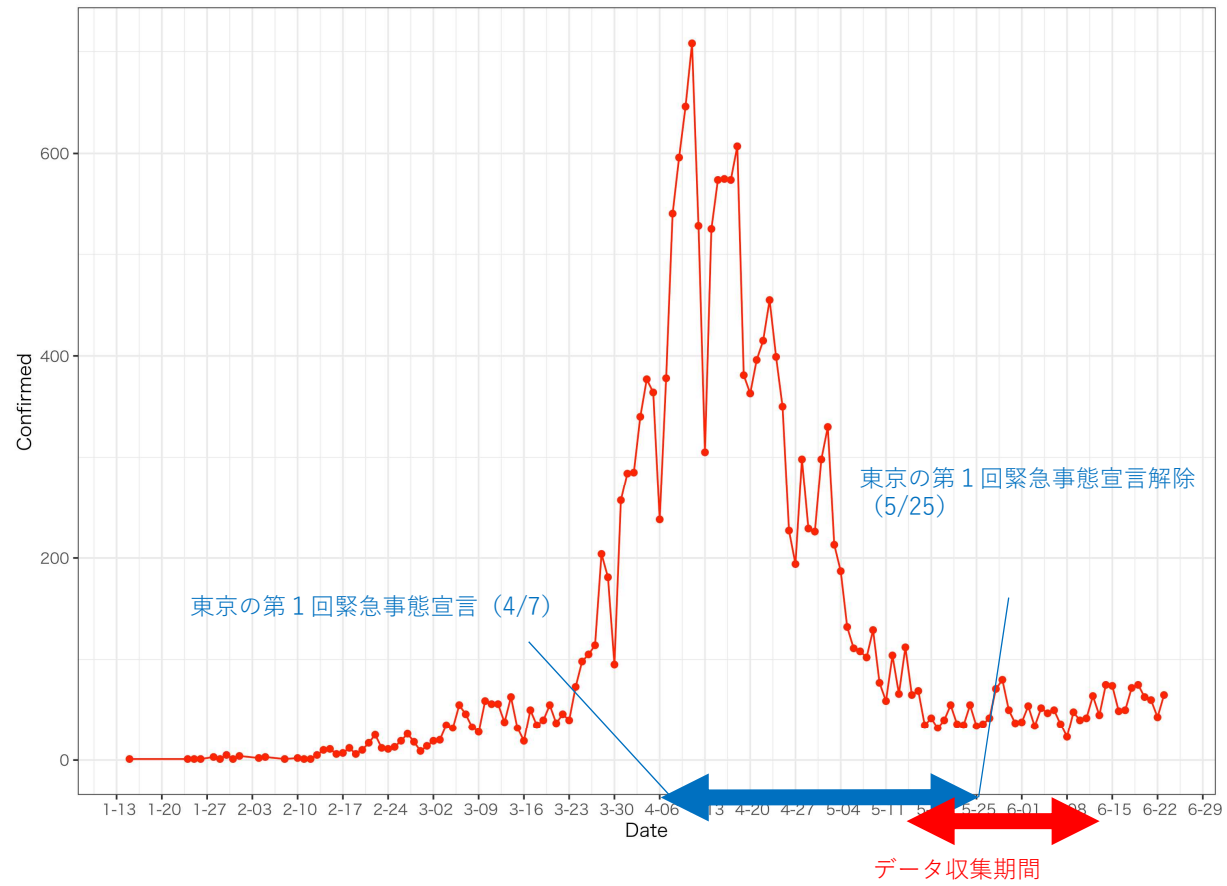
- 回答者の募集

- 2020年5月12日～14日まで、クラウドソーシングサイト（「クラウドワークス」）を通じて、家族と同居条件、一人暮らし条件を分けて募集
- 東京都・埼玉県・神奈川県・大阪府・兵庫県・福岡県・北海道（当時の特定警戒都道府県の一部）のいずれかの都道府県に在住、かつ20歳以上
- 同居：88人、一人暮らし：37人、計：125人

方法

- 経験的サンプリング法の実施（5月15日から6月13日まで30日間）





配偶者・子どもとの毎日の交流

* 10. 本日の**配偶者の方**との交流はどのくらいの時間、行われましたか？何度も交流した場合はだいたい合計時間をお答えください。

- 1分未満
- 1～5分未満
- 5～15分未満
- 15～60分未満
- 1～4時間未満
- 4時間以上

とても沈んだ
(疲れた、落ち込んだ)
気分になった

どちらとも
いえない

とても明るい
(前向きな、
晴れやかな)
気分になった



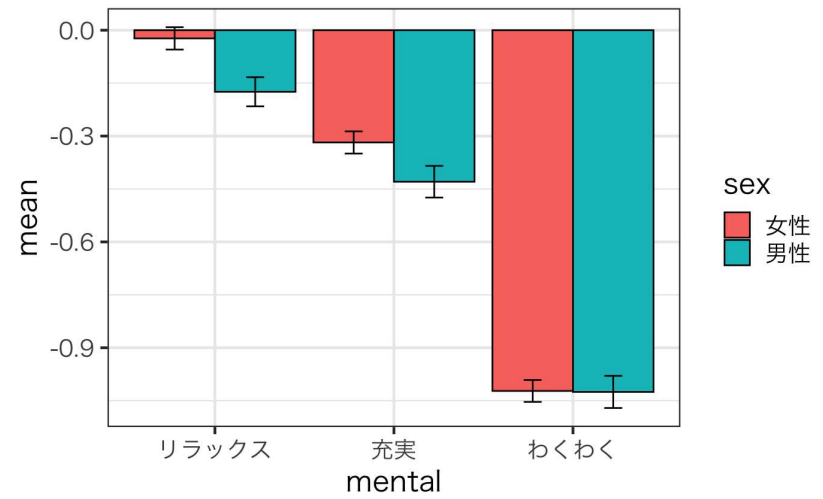
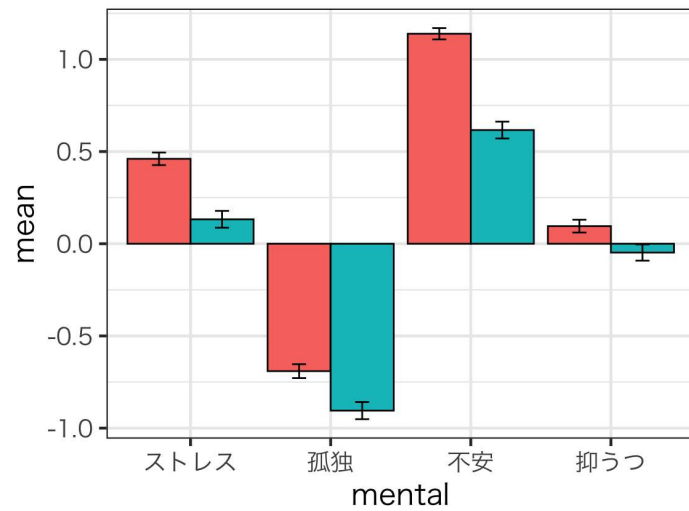
* 11. **配偶者の方**と交流する時間は、多すぎると感じますか？それとも、少なすぎると感じますか？

- 少なすぎる
- やや少ない
- ちょうどよい
- やや多い
- 多すぎる

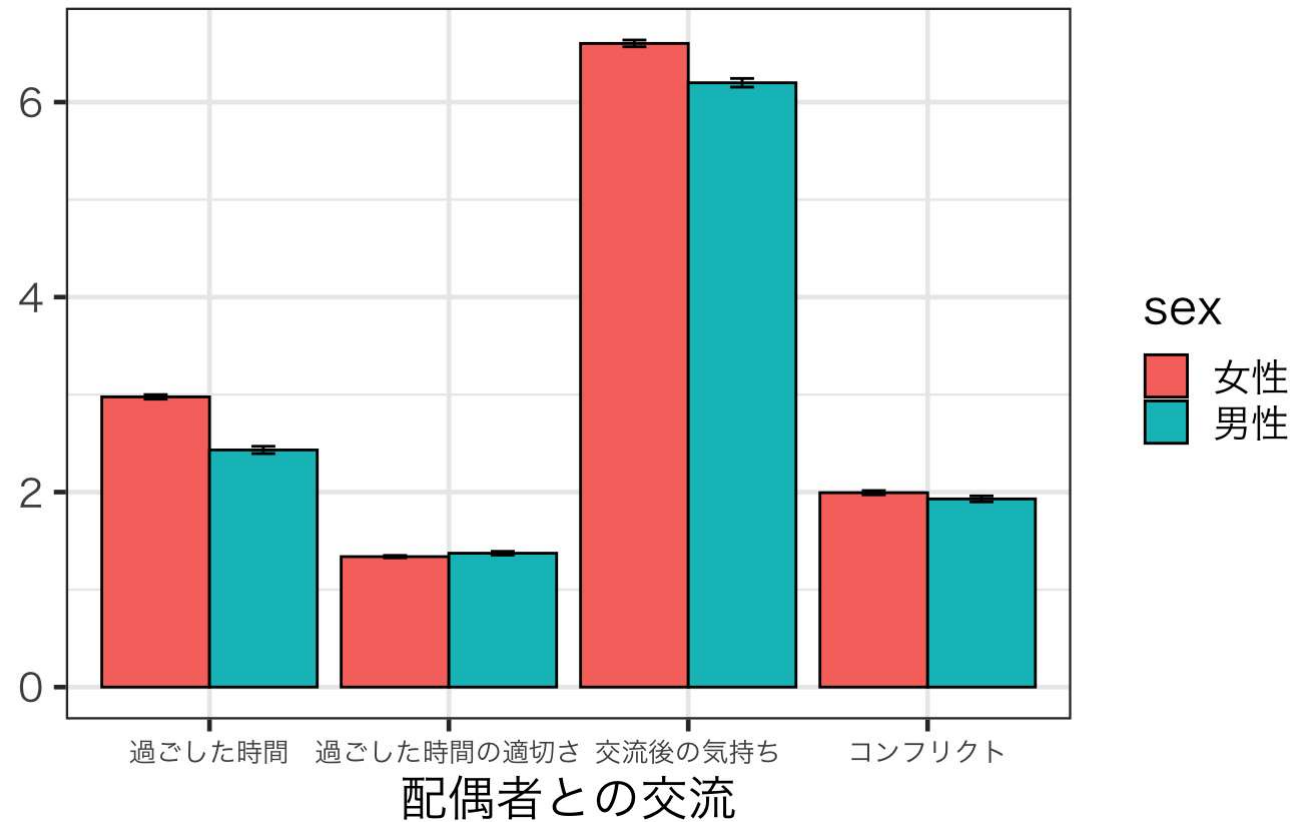
13. その交流で感情的な行き違いやちょっとした衝突がどのくらいありましたか？

- まったくなかった
- ほとんどなかった
- どちらともいえない
- 少しあった
- かなりあった

調査期間における感情状態の平均



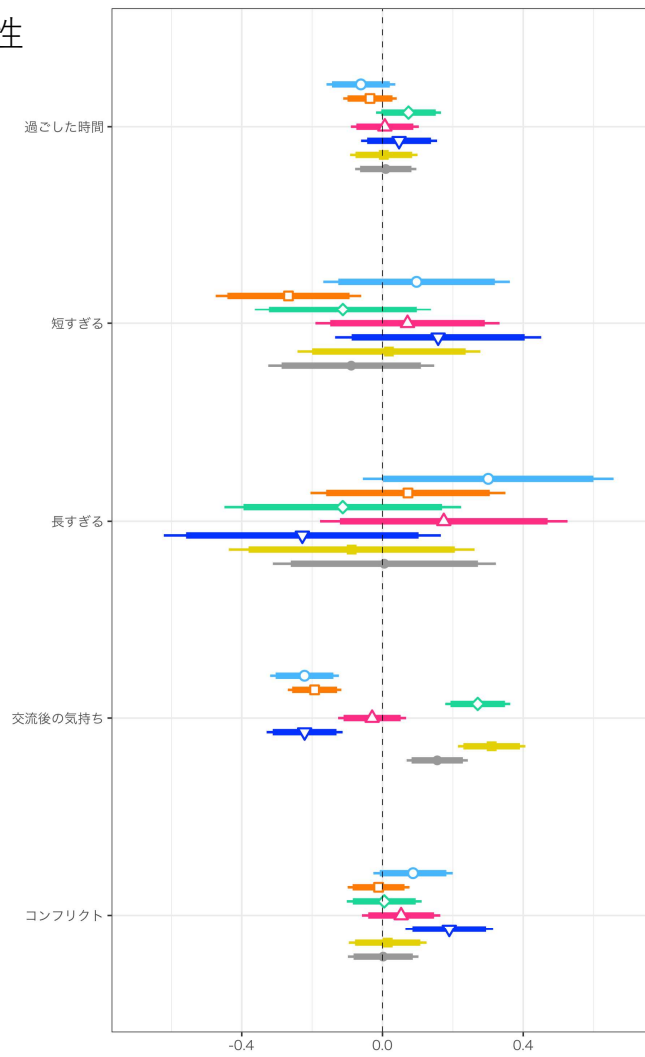
調査期間における配偶者との交流の平均



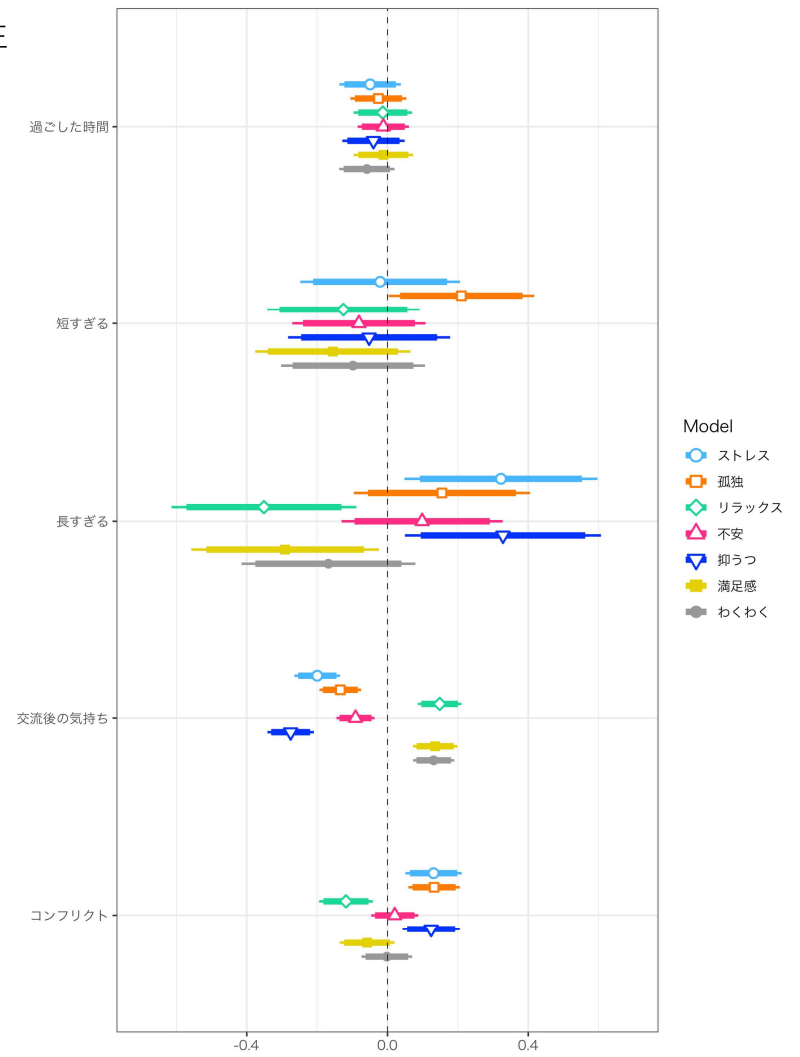
配偶者との日々のコミュニケーションのあり
方は夫や妻にどのような感情をもたらすか？

日々のコミュニケーションが、感情に与える影響（固定効果モデルによる推定）

男性



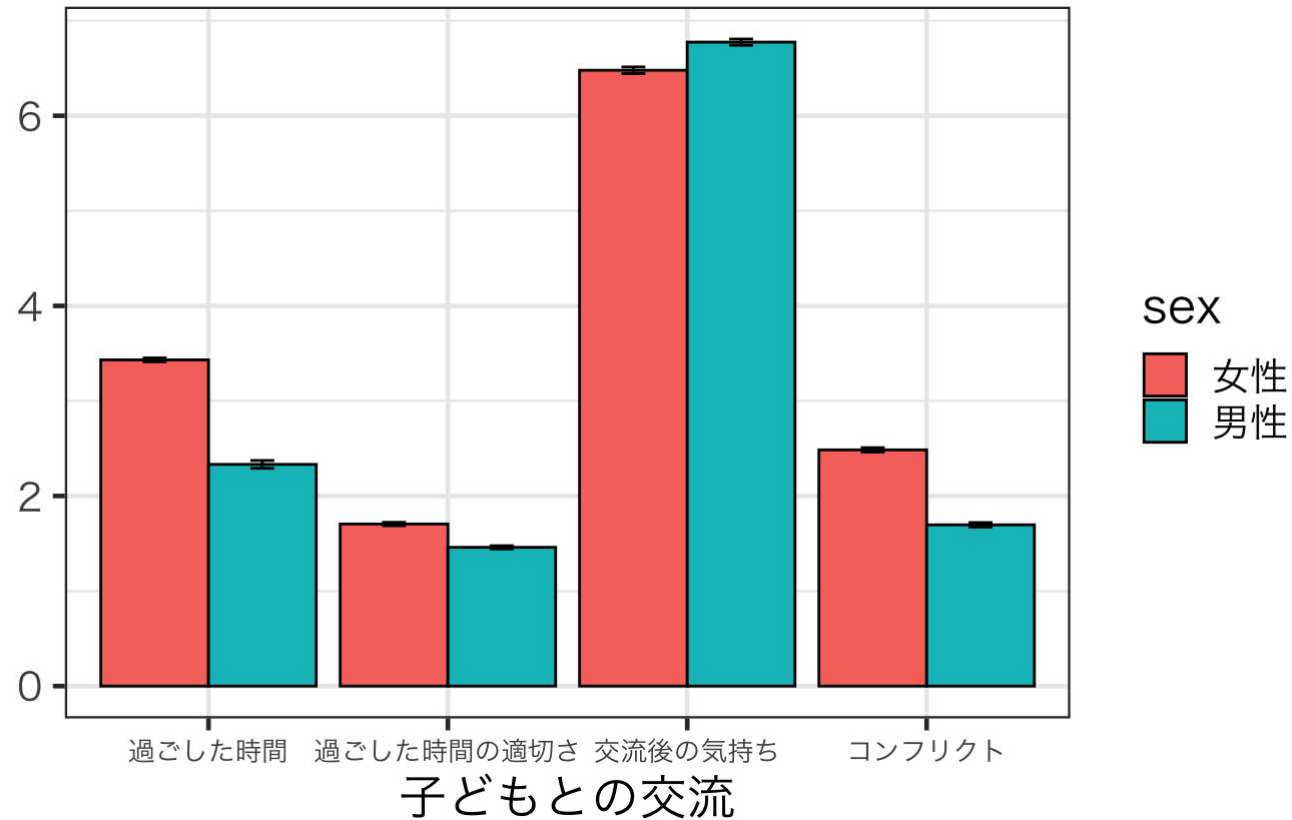
女性



配偶者との日々のコミュニケーションのあり方は夫や妻にどのような感情をもたらすか？

- 配偶者との日々のコミュニケーションがうまくいくと（コミュニケーション後の気分がよいと）、その日の感情状態全般も上向きになる。
- （女性）夫との時間が長すぎると感じる時、感情に悪影響がある。
- （女性）夫とのコンフリクトがあると、感情に悪影響がある。

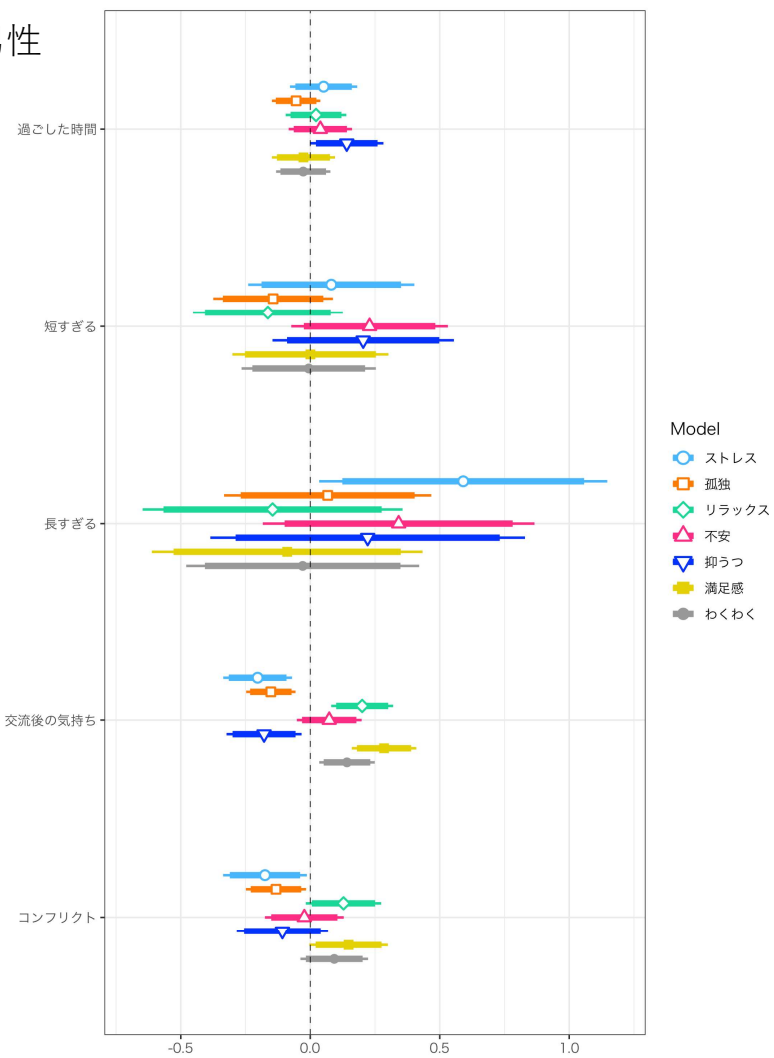
調査期間における子どもとの交流の平均



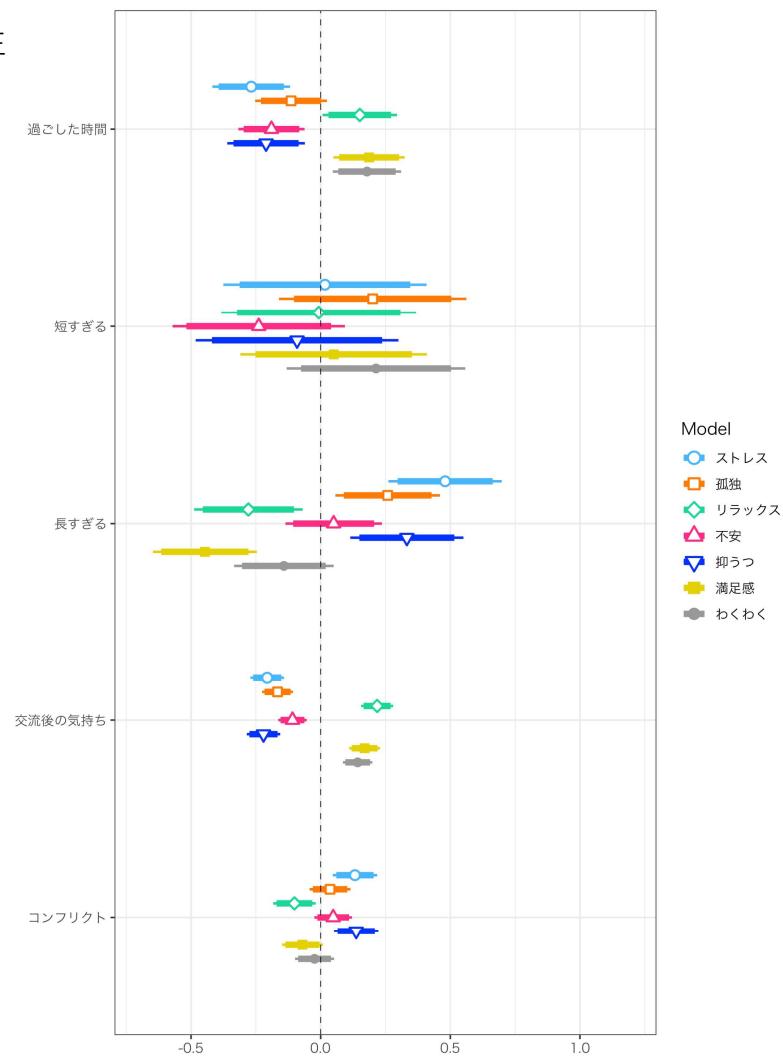
子どもとの日々のコミュニケーションのあり方は父親・母親にどのような感情をもたらすか？

日々のコミュニケーションが、感情に与える影響（固定効果モデルによる推定）

男性



女性



子どもとの日々のコミュニケーションのあり方は父親・母親にどのような感情をもたらすか？

- 子どもとの日々のコミュニケーションがうまくいくと（コミュニケーション後の気分がよいと）、その日の感情状態全般も上向きになる。
- （女性）子どもと過ごす時間はポジティブに作用するが、過ごす時間が長すぎると感じるときには、感情に悪影響がある。
- （女性）子どもとのコンフリクトがあると、感情に悪影響がある。
- （男性）子どもとのコンフリクトはむしろ、感情に好影響を及ぼす。

まとめ

- コロナ禍における家族との関係性は人びとの感情に大きな影響を及ぼす。
- とくに女性は家族との時間が長すぎると感じる場合、精神的な負荷を感じることになる。
- 女性にとっては家族とのコンフリクトは感情により深刻な影響を及ぼす。
→女性の方が家族との関係性に対するコミットメントが高い？

政策的含意

- 家族の強制的近接を緩和するような措置の必要性。過度の外出制限は？
- 家族関係のマネジメントに対する女性の負担の軽減と男女の公平な責任分担の必要性